

令和二年度 小中一貫教育 開進第一中学校グループ 図画工作・美術・技術科分科会 課題改善カリキュラム【道具（工具）】

目標：児童・生徒の表現力を高める指導の在り方～道具（工具）の扱いを通して～

	9年間の表現の学習内容	児童に身に付けさせた力	道具の扱いについて (○教師の働きかけ、◆ルール)	つまづきのポイント	カリキュラム改善の視点 (指導上、特に留意・工夫していくこと)
小学1年	はさみ 「チョッキンパッドかざろう」 ・紙を折ったり切ったりして飾りを作る。	・安全に楽しくはさみを使える ・紙の折り方や切り方、飾り方を工夫してつくる ・作りたい形を切れる	【はさみ】 ○正しい使い方 ◆紙を動かす ◆持ち方、渡し方、置き方 ◆よそみをしない 【のり】 ○敷物、手ふきの準備 ○付ける場所、量 ◆はしに付けてぴったりはる ◆こまめに手をふく	・持っている手を切ってしまう ・細かいところが切れない ・折って切る部分がわからない ・手がべとべとになり、作品や机などがよごれる ・のりの付いている場所と付いてない場所がある、量のむらがある	・手本、実物投影機等を活用し、全員に見せる ・実際のケガの例を紹介しながら、安全への意識を高める ・手本や、失敗例も提示する。途中、児童の作例も紹介し、表現への意識を高める ・難しい児童には補助線などで援助する ・作品を展示・鑑賞し、よさや違い、がんばりを認め合う
小学2年	カッター 「カッターナイフタワー」 ・窓の切り抜きや模様の切り抜き、紙の折り方などを試しながら立体タワーを作る。	・安全に楽しくカッターを使える ・カッターの良さや効果を知り、楽しみながらつくる ・切り込みや窓などのおもしろさに気づき、工夫してあらかず	【カッター】 ○正しい使い方 ◆持ち方、刃の出す量、持ち運び、置き方 ◆手の添え方、切る向き、力の入れ方	・刃を出しすぎる ・マットをひかない ・力がななめにかかって押さえた手を切る ・いきなり細かい物を切ろうとしてうまくいかず意欲がなくなる ・どうすればいいのかわからない	・刃のさびや長さの残をチェックして、良い状態のものにしておく ・カッターの良さを生かした作例を提示し、興味と意欲を喚起する ・練習で安全に切るポイントを習得できるようにする ・様々な表現方法を知るよう、切り方やつくり方の工夫した表現を紹介し全体で共有する
小学3年	(立体) 「はじめて大工さん」 ・垂木を切って自由に組み合わせて作品を作る	・のこぎりの安全な正しい使い方 ・好きな形に切って組み合わせ合わせて表せることにより、楽しさを感じてどんどん作る	【のこぎり】 ○名称、用途 ◆持ち運び方、置き方 ◆場所の確保、クランプやイスの活用 ◆番号で管理 ○安全に切るポイント ◆直定規等の使用 ◆添える手の位置、切る方向、力の入れ方 【ボンド】 ○準備と後処理 ◆敷物、手ふき ◆量、タイミング	・よく切れないのこぎり、固すぎる木でいやになってしまう ・押さえた手を切る ・無駄な力が入り疲れてしまう ・机を切ってしまう ・量が多すぎてなかなか付かず、ずれる ・接着面が少なすぎてつかない ・手や作品がよごれて意欲がなくなる ・ティッシュを使おうとする	・のこぎりは小ぶりの片刃のものから ・良く切れるか確認しておく ・気持ちよくサクサク切れる木を用意する ・手の添え方(クランプの向こう側もしくは両手切り)、力の入れ方とスピードを手本で見せて確認する ・危険な場面では、全体の活動を止めて注意を促す ・適量をいったん付け伸ばして外し、1分たったら付ける ・はみ出したところを濡れた布でふきとらせる ・ボンドの接着面を広くすることを伝え、斜めの場合には添え木などを活用する

小学4年	<p>(工作)</p> <p>「くぎ人形」「クネクネさん」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板や木にくぎを打って表したり、組み合わせて動く仕組みを活用して表す 	<ul style="list-style-type: none"> ・くぎをたくさん打つ中で、くぎの良さやおもしろい表現を思いつき、どんどん作る 	<p>【かなづち】【くぎぬき】</p> <p>○名称、用途</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆はじめはおさえてトントントン 手をはなしてドンドンドン 最後は裏側ドーン ◆番号で管理 ◆くぎの扱い 	<ul style="list-style-type: none"> ・くぎに添える手をうつ ・机に打ってしまう ・かなづちを足の上に落とす ・くぎが机上や床に散乱する ・斜めに打つ、はみ出る ・くぎぬきはてこの原理で 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じてキリで穴を開けてから打つようにする。キリの扱いも注意。 ・釘の長さや板の厚さについて確認させる ・机上を整理し、かなづちやのこぎりは机の端や何かの下に置かない ・くぎは小皿に入れて管理 ・めりこんだ釘のくぎぬきは、マイナスドライバーでヘッドを浮かせてやる
	<p>(絵・版)</p> <p>「1色多色刷り版画」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彫刻刀で彫って写す(工作) 「MY落款」 ・消しゴムで自分のハンコを作り作品に使う 	<ul style="list-style-type: none"> ・彫ることを意識して、太めのくっきりした線で下絵を表す ・主題を生かす表現を、彫り方を工夫し試す中で見つけようとする ・インクの量と刷り方の基礎を知る ・版で写すおもしろさと効果を知る 	<p>【彫刻刀】</p> <p>○用途、名称、彫り方</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆手の添え方(両手彫り)、向き ◆彫刻刀は図工室で管理する、預かる <p>【刷り】</p> <p>○インクの量</p> <p>○版の扱い</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・彫刻刀を持たない方の手を切る ・白黒と向きの反転の理解が難しい ・深く彫って力を入れ、ケガをする 	<ul style="list-style-type: none"> ・手本、ワークシートの活用 ・机間巡視して安全を確認する ・まず練習で自由にたくさん彫りコツをつかむ ・両手彫り(片手も添える)を徹底する ・彫る向きが常にまっすぐになるよう、板を回させる。なるべく板の半分から上を押さえながら彫るように指導する ・下絵が細かくなりすぎないように、太めの筆で下絵をかく
小学5年	<p>(立体)</p> <p>「ズラシックパーク」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板に絵をかき、糸のこで切って舞台セットのように遠近感を意識して組み合わせる <p>(立体)</p> <p>「わいやあ道」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルミ針金で自由に形を作り、木片に設置する 	<ul style="list-style-type: none"> ・表したい風景を板で作って、工夫して配置し奥行きのある作品をつくる ・板や木を自分の思いに合わせて切ったり接着したりできる 	<p>【電動式糸のこぎり】</p> <p>○名称、用途</p> <p>○刃の取り外しと管理</p> <p>○準備と片付け</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆準備・片付けは協力して行う ◆使用時は1人 ◆針は必ず返却する <p>【針金】</p> <p>○先端部への配慮</p> <p>○ペンチの用途、扱い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆とがっている先は丸める、周りに配慮する ◆針金を胸より上に持ち上げない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ななめに切つて刃が折れる ・折れた刃を放置したり捨てたりする ・スイッチ操作を手伝ってケガをする、させる ・切った木やおがくずのそうじ 	<ul style="list-style-type: none"> ・スピードと板の回しについて手本で確認しながら提示する。 ・まず楽しく気持ちよく切る練習をする ・刃が折れたら全部持って来させて、切り方を一緒に確認して改善する ・糸のこを使っている人に近づきすぎないように指導する。スイッチ操作は自分でやるよう徹底する
				<ul style="list-style-type: none"> ・アルミの端は非常に鋭利 ・長いアルミを扱い、周りの者にあたる ・ペンチで手のひらをはさむ 	<ul style="list-style-type: none"> ・場所を広く取る ・必要に応じてゴーグルを使用する ・切り方や先の丸め方を手本で行いながら、ペンチでしやすいケガについても確認する

小学 6年	(工作) 「MY博物館」 ・ふたが開く箱を作り、中に好きな世界を展示する。	・材料や道具を選び、自分の思いや願いに合わせて楽しみながら作ることができる ・釘や接着剤を、用途に応じて使うことができる	【段ボールカッター】 ○用途、正しい切り方 ◆数を確認める 【電動式糸のこぎり】【針金】【接着】 ○既習事項を確認する	・段ボール以外のものを切ろうとする ・カッターのように切ろうとする ・既習事項を忘れている、面倒くさがる	・手本で提示する ・ポイントを復習しながら確認する ・掲示や以前のワークシートを活用し自分で確認できるようにする
	(絵・版) 「回転版画」「彫り進み版画」		○既習事項を確認する		
中学 1年	木彫りの箸の制作(美)	・安全に小刀を使える ・研磨をして木の杓目を出すことを通じて木の良さや美しさに気づく ・作りたい形に加工することができる。 ・安全な刃物の使い方を身に着ける	【小刀】 ○刃物を使うときの約束 ◆持って歩かない ◆人に向けてない ◆手を前に置かない 【彫刻刀】 ○刃物を使うときの約束(小刀と同じ) ○切り出し刀 ◆片方の手を添える	・持っている手を切ってしまう ・細かいところが切れない ・削りすぎてしまう ・木が折れる ・深く彫りすぎてしまう ・細かいところは研磨しにくい	・手本、実物投影機等を活用し、全員に見せる ・あらかじめ、実寸のアイデアスケッチを描き、先に使う道具を紹介することで作品を完成させるまでの工程を意識させる ・進捗表を用いて残りの時間数を意識して制作させる ・あらかじめ、作業の手元を録画し投影することで、作業が早い生徒、ゆっくりの生徒に対応する
	木材加工 「ダブルティッシュケース」(技) 「パイン10で収納づくり」(技)	・安全に注意して作業する。 ・けがきから切断、仕上げまで丁におこなう。 ・自分で設計したものを形にする。	【のこぎり】【電動糸のこぎり】【かなづち】 【木工用ボンド】等 ○既習事項(小学校時に習ったこと)の確認。 ○両刃のこぎりの使い方の確認。 ○刃の扱い・交換の確認等 ◆自分や周囲への安全への配慮。	・切断する線から曲がってしまう ・電動糸のこぎりの刃を曲げる、折る ・折ってしまった刃をそのままにしてしまう	・ペアを組んでのこぎりの刃がまっすぐ進んでいるかを確認しながら行わせ、正確な作業を行うようにする。 ・作業が早い生徒をスモールティーチャーとして、遅れている生徒に教えさせる。
	「瞬間美」(美) 針金立体の制作	・自由度の高い針金を使い、瞬間美を表現する ・躍動感のある動きを理解する ・ペンチを安全に使う	【針金】【アルミ線】 ○先端部への配慮 ○ペンチの用途、扱い方 ◆とがっている先は丸める、周りに配慮する	・針金を巻きすぎてしまう ・針金が絡まってしまう	・あらかじめ、作業の手元を録画し投影することで、作業が早い生徒、ゆっくりの生徒に対応する ・途中経過の見本をいくつか掲示し、作業の見通しをもたせる

中学 2 年	レザークラフト (美) 「ペンカバー」の制作	<ul style="list-style-type: none"> 革の良さを感じながら、制作する。 革の制作を通じて、一つのを長く使うことを体験させる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆本来の用途以外の使い方をしない (ふざけない) 【木槌】 ◆木槌の使い方、用途 【革切はさみ】 ○刃物を使うときの約束 ◆持って歩かない ◆人に向けない ◆手を前に置かない 【革包丁】 ○刃物を使うときの約束 (革切はさみと同じ) 	<ul style="list-style-type: none"> 作業に追いつけない 作業が早く進む 工程が多い カバーをきつく制作してしまいペンが入りにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 手本、実物投影機等を活用し、全員に見せる あらかじめ、実寸のアイデアスケッチを描き、先に使う道具を紹介することで作品を完成させるまでの工程を意識させる 進度表を用いて残りの時間数を意識して制作させる あらかじめ、作業の手元を録画し投影することで、作業が早い生徒、ゆっくりの生徒に対応する
	金属加工 「ペン立て」(技)	<ul style="list-style-type: none"> 種類の違う金属を切断、研磨し、違いを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【弓のこぎり (金切りのこ)】 ○正しい使い方 【卓上ボール盤】 ○安全な使い方◆巻き込みに注意する。(袖・髪の毛など) 【ドライバー】など 	<ul style="list-style-type: none"> 作業が遅れてしまう とがった部分に触りケガをする 	<ul style="list-style-type: none"> デザインが難しすぎる場合には、助言をしながらその生徒の技能レベルに合わせたものにし、遅れすぎないようにさせる。 常に安全を意識させながら作業を行う。
中学 3 年	デザインカッター (球体ポップアップカード)	<ul style="list-style-type: none"> 安全にカッターを使う カッターの良さや効果を知り、楽しみながらつくる 3層を意識して切り込みなどを活用して奥行きを意識して制作する 	<ul style="list-style-type: none"> 【デザインカッター】 ○正しい使い方 ○刃物を使うときの約束 ◆持ち方、刃の出す量、持ち運び、置き方 ◆手の添え方、切る向き、力の入れ方 ◆刃の替え方 	<ul style="list-style-type: none"> 刃を出しすぎる マットをひかない 力がななめにかかって押さえた手を切る いきなり細かい物を切ろうとしてうまくいかず意欲がなくなる どうすればいいのかわからない 刃の替え時。がわからない 	<ul style="list-style-type: none"> 刃のさびや長さの残をチェックして、良い状態のものにしておく。 カッターの良さを生かした作例を提示し、興味と意欲を喚起する。 練習で安全に切るポイントを習得できるようにする。 様々な表現方法を知るよう、切り方やつくり方の工夫した表現を紹介し全体で共有する
	レザークラフト 「パスケース」の制作	<ul style="list-style-type: none"> 革の良さを感じながら、制作する。 革の制作を通じて、一つのを長く使うことを体験させる 	<ul style="list-style-type: none"> ○既習事項を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> 作業に追いつけない 作業が早く進む 工程が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 手本、実物投影機等を活用し、全員に見せる。 あらかじめ、実寸のアイデアスケッチを描き、先に使う道具を紹介することで作品を完成させるまでの工程を意識させる。 進度表を用いて残りの時間数を意識して制作させる。 あらかじめ、作業の手元を録画し投影することで、作業が早い生徒、ゆっくりの生徒に対応する

※ 今年度は図画工作・美術と技術が関係するものとして、主に切削・切断等に係る道具(工具)を中心に課題改善カリキュラムの検討を行った。今後、図画工作・美術の中で絵画分野での9年間の流れについても同様に表にできるように検討している。